

手術せずに腰痛を治すAKA療法を推進



●「先生じゃ治らない」の一言で新治療法を模索

望クリニック

整形外科

住田 憲是 主任医師

整形外科的痛みの90%は関節機能異常で起こる

腰痛は人間が二本の足で歩き始めた、いわゆる進化が生み出したものだから……、という医者は多い。が、それは腰痛は「治らない」と言っているのと、ほぼ同じである。

治らないなら、そのままにしておけばいいのに、整形外科では手術をして、時には逆に悪くなってしまっているケースも多い。

そんな状況があるから、患者は東に腰痛の名医がいると聞くと東へ、西に名医がいると

聞くと西へ。

その東奔西走に終止符を打つ療法が、着実に注目を集めてきている。従来の整形外科の理論とは大きく異なる「AKA（関節運動学的アプローチ）療法」。日本的に言えば「関節運動学的アプローチによる腰痛治療法」ということになるだろう。

アメリカのM・A・マッコネル博士が一九七〇年代に唱えた関節運動学を基礎にして、日本のリハビリテーション専門医の博田節夫院長（博田理学診療科 大阪府河内長野市）が開発した手技療法である。

東京でAKA療法を推進しているのが望クリニック（東京・豊島区）整形外科の住田憲是主任医師。大病院で「手術以外に方法はない」といわれた腰痛患者が、数多く救われている。

CT、MRIと検査技術は進み、骨や椎間板の異常が、これまでの何倍も確実に発見できるようになった。

痛みがひどいケースでは、MRIに写った椎間板の異常箇所が、当然、痛みの発生場所と考えられ、結局、手術となる。

「しかし、椎間板ヘルニアで手術を勧められたケースで、本当に手術が必要なケースはわずか10%前後に過ぎないのです。残りの人々は、手術をしても痛みが取り切れず、その後

